

3<sup>rd</sup> International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Woody Rootsに参加して

## 福澤 加里部

北海道大学農学研究科

2003年9月29日～10月2日までの日程で、オーストラリアのパースにて「3<sup>rd</sup> International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Woody Roots (第3回木本植物根の生理過程の動態に関する国際シンポジウム)」が開催された。その名前からも想像できるように、根の中でもとりわけ森林や樹木の根について研究している研究者が集った。口頭発表・ポスター発表あわせて120名ほどの参加で、規模としては小さく、アットホームな雰囲気のもと行われた。日本からは8名ほど(内学生3名)参加していた。シンポジウムは2つのワークショップ(根系通導構造、根圏の相互関係)と4つのセッション(養分吸収と利用、同化産物の転流と根への分配、根の成長・発達とターンオーバー、水フラックス)から成り、朝から夕方までは口頭発表、そして夕方からワイングラスを片手にポスター発表というスケジュールだった。発表は分子レベルの研究から林分レベルのスケールの大きな研究まで多岐にわたっていた。印象深かったのは、菌根に関する発表が多かったことである。また、高い養分吸収能をもつという「クラスタールート」とよばれる非常に細かい根に関する発表も興味深かった。どの発表も非常に洗練されていた。

そんな中、私は森林における細根の生産量についてポスター発表した。森林における年間の細根生産量・枯死量、またその回転速度(ターンオーバー)については、定量的に明らかになったとはいえ、統一した見解が得られていない。このシンポジウムでは、「根の成長・発達とターンオーバー」がセッションになっており、その点について多くの研究者とディスカッションできたのはよかった。日本で同じような研究をしていながら、お互いに今回初めて会ったという研究者もいて、こういうシンポジウムが重要であると感じた。

エクスカージョンでは、パースから南へ300kmほど離れたKarri Forestにて林業現場や研究フィールドを見学した。樹高60mにもなるユーカリの森林や赤色の土壌を見ることがで

き、感激した。研究フィールドでは、生態系における窒素降下物が増加することを想定した実験で、窒素散布が根の活性に及ぼす影響を調べているとのことだった。ルートウィンドウを用いて根の活性を測定する研究は特に興味深かった。「森林生態系の物質循環における細根動態の重要性」という研究のバックグラウンドを含めて大いに今後の研究の参考になった。言うまでもないが、研究フィールドを実際に見ることができたのがうれしい。そしておまけにワイナリー見学がついていたのもうれしい。とても有意義な時間であった。

英語圏に身をおくのが始めてだった私にとって、すべてが初めての経験であり新鮮であった。会話では苦勞したが、その苦勞はさらに英語のトレーニングを積む必要があることを認識させてくれた。この苦勞もよい経験だったと思う。今回参加してたくさんのものでしたが、多くの研究者と知り合えたことがなによりも大きな収穫である。彼らとはこの場に限り今後インターネットを通じて情報交換できるのである。このようなシンポジウムで得たものを今後の研究に生かしていきたい。

なお、「苺住基金」より本シンポジウムへの参加費用の一部を援助していただいた。感謝申し上げます。



エクスカージョンで訪れたユーカリ林にて

2003年11月18日受付

\*連絡先 〒096-0071 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 森林園ステーション北管理部  
Fax: 01654-3-7522 E-mail: caribu@exfor.agr.hokudai.ac.jp